

OB遠藤新金沢工大講師、池田聖子OGと挙式

見事なゴールイン、そして、最高のスタート

2005年11月13日、秋晴れ。遠藤新OB・元助手と池田聖子OGの結婚式は代官山グラナダスイートにて、15時半より人前式で執り行われた。まずは「ビートルズがやって来るヤァ! ヤァ! ヤァ!」をBGMに、純白の衣装の遠藤さんが派手に登場。続いて池田さんはいつも通りおしとやかにこやかに登場。二人は皆の前で結婚の誓いをたて、承認、祝福された。引き続き16時半から同所で開催された披露宴では、西村・北沢両先生をはじめ、縁のある人たちから次々とお祝いの言葉が寄せられた。勿論、新郎本人が参加しての応援団のエール披露もあり、披露宴会場は終始、楽しく賑やかであった。



結婚式での指輪交換



二次会、花婿花嫁を囲んで100人の乾杯



花より花のおふたり

披露宴二次会は、代官山のカラート71で夜8時から10時まで開かれた。研究室の先輩、同僚、後輩ら100人が駆けつけ、10分強、おふたりの生い立ちの記録ビデオが上映されたところで、純白衣装の新郎新婦が螺旋階段を天下って入場。乾杯のシーンは、広い映画スタジオでスターに詰めかけるファン群の風景さながらだった。参会者ひとりひとりがポラロイド撮影された印画の裏にメッセージを書いて提出し、そのなかのいくつかは書いた本人が直接マイクで内容を述べる新趣向や、OB OG現役の混合チームによる器楽合奏があった。次いで新郎新婦がむらづくりにかかわった岩手県大野村と岐阜県白川村からのビデオレターが上映されると、実際に大野村から地酒、白川村からドブロクがお祝いに贈られ、みなに振る舞われた。最後は軽やかなキスの後、全員がつくる花の輪をくぐって、新夫妻は退場した。

出口でひとりひとりと握手を交わすおふたりに、本誌から「ひとこと感想」をうかがうと、新郎は「とても幸せ!」、新婦は「こんなに多くの方がお祝いにきてくださって、うれしい!」という答えだった。

社説 遠藤新・池田聖子に学べ

遠藤さん、池田さん、ご結婚おめでとうございます。お二人の人徳、人柄のゆえか、二次会にはOB OGがそれはそれは沢山集まりました。そういえば、かつて、お二人以外にも研究室内(ないし学科内)に数組のカップルが群雄割拠する時代がありました。最近はどうでしょう、研究室に愛はありますか?皆、少々ばて気味でしょうか。お二人の付き合いは研究室時代より前に遡るとしても、同じ研究室に在籍したことがお二人の仲をより強固、確実にしたことに疑いはありません。「社会への愛情、それを都市計画という」、これは石川栄耀の名言ですが、まずは身近な人への愛情なくしては社会への愛情もありえないわけで、どんどん身近に愛し合い、愛を大切に育み、大きく花開かせていきたいものです。二次会幹事として、お二人の幸せな姿に接する機会を得て、私は都市デザインに必要な何かをまた一つ、お二人に教わりました。(中島直人)

12月5日ベルク特別講義、本郷ツアー4班で準備

■テーマ「近代のコスモス喪失の中の風景」（講義は日本語）

■12月5日(月)12:00～13:00(60分) ■工学部第14号館141講義室(開場11:45)



14号館前、ある見学会(12日)



日文研のベルク教授

オギュスタン・ベルク Augustin Berque フランス国立社会科学高等研究院(EHESS)教授(国際日本文化研究センター外国人研究員として滞日中)の都市工学科特別講義は、12月5日(月)に行われるが、テーマが「近代のコスモス喪失の中の風景」に決まるとともに、前日午後には都市デザイン研究室がベルク博士と東大内外の本郷界隈まちあるき(ベルク本郷ツアー)をすることになった。そのため西村教授の提案で、ベルク来学を契機に新たな都市の読み解き研究を立ち上げることになり、4日に界限別4班がスタートして現地調査を行うとともに、ベルク著『日本の風景・西欧の景観—そして造景の時代』『都市のコスモロジー』などを読み合っている。今後集約ミーティングを重ねて当日の配布資料を作成する。

| | | |
|----|-----------------------|-----------------------|
| 班別 | 菊坂チーム 馬場美彦・坂内良明・鈴木智香子 | 森川チーム 野原卓・永瀬節治 |
| | 西片チーム 田中暁子・岡村祐・酒井憲一 | 東片チーム 中島直人・竹山奈未・後藤健太郎 |

第2回研究室会議 冬学期第2回研究室会議は8日開かれ、韓国からの邊(ビョン)在相研究員、ドイツのマティアス・ディーゲ研究生の自己紹介、ベルギー留学から帰国した田中暁子D2のあいさつに次いで、M2の5人が研究発表した。内山(「民有地オープンスペースにおける市民参加型デザインと市民による管理の可能性に関する研究」)は、事例絞り込みを終え、現地調査の報告も。アメリカでの調査・学会参加から当日帰国の黒瀬(「多様な主体の協働によるブラウンフィールド再生手法の研究」)は、論文の章立てで詳細を展開し、戸田(「温泉街における共同湯の保全と再生」)は、山形・赤湯温泉の再生を最終章に盛り込む郷土愛、田辺(「近隣商店街の地域との関係性の再構築のプロセスに関する研究」)、大谷(「都心駅前近隣型商店街についての基礎的研究」)は、いずれも近隣商店街に注目した。

チーさんの座禅

北国新聞報道



ベトナムからの留学生チーさん(M2)は本誌9号で既報の通り、夏休みに金沢市で開かれた第18回「JAPAN TENT—世界留学生交流会いしかわ2005」に参加し、みなで体験した座禅などの模様が8月3日付北国新聞に報じられたが、その新聞がチーさんから提供された。

座禅は大乗寺で行われ、留学生29人が足の組み方、呼吸の仕方を教わり、額に汗を浮かて精神統一に努めた。左端がチーさんである。

編集後記 遠藤新先生と池田聖子さんの7年の恋が実り、研究室の先輩、同僚、後輩が集まったのお祝い大劇場が現出した。以前結婚決定についてのスクープの機会があったものの、時期尚早で報道を見送ったことがあった。しかし、機熟し今回晴れて本誌を挙げて報じることができたように、新挙式グランドデザインで展開された。そのうえ、中島直人助手の友情の社説も登場し、工学知ひいては人間存在の融合、「愛の都市計画」の契機ここにといった感を深くした。(酒井)